

秋晴れの下、天然芝のスポーツ大会



選手宣誓



あいさつ 名古屋中税務署長
村田 知英子 氏



筆頭副署長
竹谷 英明 氏 (右)
税金八カセ 筆頭広報広聴官
中村 治 氏 (左)



青年部会長 大塚 真次郎 氏
ドラゴン久保サインボールプレゼント



開会式・主催者あいさつ 名古屋中法人会 副会長 高橋 公比古 氏



チアリーディング 中京大学附属中京高校の皆さん

特別スポーツ大会2019名古屋中法人会TAX杯

第22回ミニサッカー大会

日時/令和元年11月17日(日) 9:30~16:30 会場/パロマ瑞穂スポーツパーク北陸上競技場
参加チーム/28チーム 小学1・2年生部門23チーム、年少・年長部門5チーム

税が私たちの暮らしにどのように役だっているかを、子どもたちと保護者の皆さんに知っていただくため、「税を考える週間」が毎年実施されています。

名古屋中法人会はこの時期に特別企画として、子どもから大人まで楽しめるスポーツイベントを開催しています。

愛知県体育館でミニサッカー大会を21年間開催してきましたが、今年度は会場の建て替えに伴い、「瑞穂公園北陸上競技場」に移して開催しました。

新しい愛知県体育館は、2025年に名城公園野球場の跡地にオープンする予定です。

成績

小学1・2年生部門 優勝 FCホッツレッド、
準優勝 東海フットボールクラブ
年少・年長部門 優勝 FCホッツ、
準優勝 イーストールFC U-6



税金クイズスタンプラリー解答説明・抽選会



名古屋中税務署との企画打合わせ



名古屋中税務署幹人と青年部会の皆さん

社会貢献事業 クラウン派遣 みんなに笑顔を クラウンがやってきた!

日時/令和元年12月10日(火) 10:30~12:00 会場/学校法人名古屋旭学園 旭キングダーの丘幼稚園

園児のクリスマスの歌とクラウンたち



主催者あいさつ 名古屋中法人会 副会長 高橋 公比古氏



出演/ロイさん、クーリーさん、みつぶさん



支部事業活動 大須支部「大須大道町人祭」協賛

日時／令和元年10月19日(土)～20日(日) 会場／大須萬松寺通

税の啓蒙と法人会のPR・会員募集活動



名古屋中税務署 法人第一統括官 加藤 辰男氏(左)と
大須支部役員の皆さん

令和元年度 運営研究発表会

日時／令和元年12月3日(火) 14:30～17:15 会場／ホテル キャッスルプラザ4F 鳳凰の間

《研究報告テーマ》

津島法人会

「人が集まる交流の場 知って得する法人会」

刈谷法人会

「部会(青年部会・女性部会)活動の充実と
本会の活性化」

千種法人会

「法人会のあるべき姿と事業活動
法人会の理念・行動規範」

岡崎法人会

「地域に根付く法人会 支部活動と租税教育」



青年部会 合同セミナー ～さまざまな困難を有する若者の就労支援について～

日時／令和元年10月21日(月) 13:30～15:00 会場／名古屋市公館



名古屋市長 河村 たかし 氏



青年部会長 大塚 真次郎 氏



名古屋市公館

経営研究会 LIVE DE NIGHT 2019

日時／令和元年10月25日(金) 18:40～21:30 会場／名古屋インターナショナルレジェンドホール 中区大須1-7-26



川村 正 氏



茂山 光夫 氏



清田 常治 氏



名古屋中税務署幹部と経営研究会の皆さん

女性部会 署長講演会・情報交換会

日時／令和元年11月7日(木) 11:00~13:30 会場／テレビア14F ホテルオークラレストラン 暁の間
講師／名古屋中税務署長 村田 知英子 氏 演題／税は文化をつくる



「税は文化をつくる」
講師 村田 知英子

昔も今も、暮らしを変える税金いろいろ

「沽券^{こはん}にかかわる」の語源になった「沽券（土地の売買証文）税」明治時代初期
「うなぎの寝床」と呼ばれた京の町屋の間口に於じて課税する「間口税」江戸時代（徳川家光の代）
「相続税」の基礎控除額（非課税枠）の引き下げで、増える課税対象の人



名古屋中税務署長と女性部会の皆さん

愛知県法人会女性部会連絡協議会 令和元年度 情報交換会

日時：令和元年11月21日(木) 14:00~
会場：ホテルキャッスルプラザ



青年部会 租税教室講師養成研修

日時／令和元年10月29日(火) 会場／名古屋中税務署



講師：名古屋中税務署 副署長 柚木 晶子 氏

平和支部 揚輝荘見学と食事会

松坂屋創始者第15代伊藤次郎左衛門祐民別荘「揚輝荘（市指定有形文化財）」料亭「松楓閣」

日時／令和元年10月24日(休) 10：30～



揚輝荘

東部三支部（新栄・老松・千早） 合同視察研修
老舗料亭「招福楼本店」と国宝湖南三山「長寿寺・善水寺」法話・拝観

日時／令和元年10月24日(休) 7：45～18：40



小雨の善水寺本堂



新春記念講演会・賀詞交歓会

日時／令和2年1月23日(休) 18:30~20:55 会場／ローズコートホテル 4Fローズルーム 3Fアブローズ
講師／名古屋中税務署長 村田 知英子氏 演題／法人会と税務行政 アトラクション／ミス日本酒 利酒パフォーマンス



新春記念講演会
「法人会と税務行政」
講師：名古屋中税務署長
村田 知英子氏



ローズコートホテル 4Fローズルーム



賀詞交歓会あいさつ
名古屋中法人会会長
岡谷 篤一氏



乾杯の発声 名古屋中税務署長 村田 知英子氏



ミス日本酒

アトラクション

ミス日本酒
利酒パフォーマンス



利酒パフォーマンス



ローズコートホテル 3Fアブローズ



賀詞交歓会 女性部会の皆さん

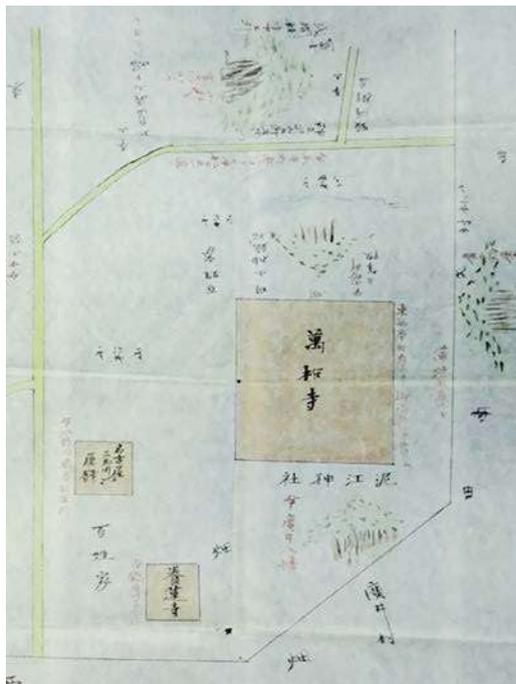
「住吉の語り部となりたい」②

「久屋大通公園のいま・むかし」小袖川と久屋町

料亭つたも会長・深田 正雄

久屋大通公園は、北は外堀通、南は若宮大通へ約2kmにわたる都市公園で、名古屋市のシンボルロード100m道路です。太平洋戦争で焼け野原となった南北の久屋町に戦災復興計画で1954年建造の日本最初の電波塔「テレビ塔」をランドマークとして長く市民に親しまれた公園でした。この度、錦通り以北で2018年、三井不動産を代表とする企業グループが事業者に決まり、全国初の「Park-PFI制度」による再開発事業がスタートしております。現在、北エリアとテレビ塔エリアの再整備が進められております。今年3月のオープンでしたが産業廃棄物処理もあり、今夏には生まれ変わった市民の憩いの広場への期待が高まっています。また、テレビ塔内には高級なスイートルームを中心としたホテルが併設、話題となっています。

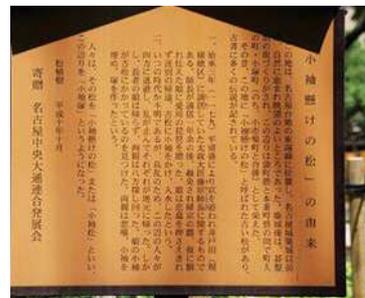
現在は工事で何もなくなってしまいましたが、今回は、久屋町の昔をお話しいたしましょう。



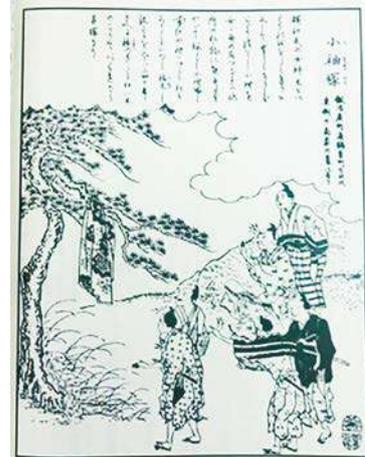
慶長（1596年）以前の尾張古図（上図）：名古屋城は図の北に1610年に建設されました。築城前は那古野の中心・万松寺西に小山があり、南北に小袖川が流れていました。（熱田三六氏提供）

古代から木曾の伏流水といわれる多くの泉が湧いていた北端は海拔12m、南のフラリエは海拔6mと大きな谷となっており、豊かな小袖川が流れ、南の現在の堀留・フラリエあたりで精進川に合流していたと思われます。川沿いには街道ができ、美濃から三河を結ぶ駿河街道につながる要路であったようです。

久屋町の由来は、初代藩主義直がこの町を通った時「この町の名前は、何と呼ぶのか」とお尋ねになった。お供をしていた者が「干物町です」とお答えした。「これからますますこの町は繁昌しなければならぬ。干物町という名前では何か物足りない。今から町名を改めて久屋町にせよ」とおっしゃった。久しく家屋のある町という意をこめて、初代藩主が名づけた町が、久屋町である。（『花の尾張の碁盤割』 P.87より）



工事前にテレビ塔の南には、松の木の下に小袖川の由来の看板が地元発展会により立ててありました。



「小袖掛の松」の由来工事で撤去されました。（上）尾張名所図会より 小袖塚 川沿いの描写（下）

恋の伝説が残る「小袖懸けの松」です。平家全盛期である平安時代、藤原頼長の長男で太政大臣であった藤原師長は、治承三年の政変とよばれる平清盛のクーデターが起こると、清盛によって井戸田村（現在の瑞穂区）に流されました。師長は、琵琶の名手として知られており、井戸田で琵琶を奏で自らを慰めていたようです。現在の瑞穂区師長町や妙音通（琵琶の奏でる妙なる調べ）の名称由来ともなっています。

師長の身辺の世話をしていた娘（井戸田村 横江村長の娘「槐」）と契りあっていましたが、まもなく帰京を許可されます。師長は、土器野里（現在の清須市）まで見送りにきた娘に形見として琵琶の白菊を与えました。娘は後を追おうとしますがそれもかなわず、別れを悲しむあまり、松に小袖を脱いで掛け、与えられた琵琶を抱いたまま、小袖川に身を投げてしまったのです。

1610年名古屋城築城とともに、藤野といわれた台地の山や川が整地され、碁盤割の城下が建設され清須越しという、大都市移転が行われました。久屋町は碁盤割の東より2本目に位置しております。（東端は武平町）

久屋公園・テレビ塔の北東の足から20m ぐらい離れたところに、巻紙を連想させる石碑と、その横の地上には副碑と教育委員会による説明パネルが建っていました。

「蕉風」とは、松尾芭蕉とその門人によって確立された俳句の作風。俳諧は連歌から生まれ、当初は“洒落”や“滑稽”を主とする言葉遊びでしたが、松尾芭蕉は“さび”を重んじ閑寂で気品高い芸術をめざしました。芭蕉は伊賀上野に生まれ、1684（貞享元）年に伊賀上野から江戸に下る途中名古屋に立ち寄り、名古屋の青年俳人らと連句の会を催して句集「冬の日」（芭蕉七部集の一）を刊行しました。「宮町筋久屋町西入ル南側」の借家に住んだその場所がここです。

家主は傘屋久兵衛、身元引受人は大和町の備前屋野水で尾張の町衆がスポンサーであったようです。弟子の河合曾良を伴って「奥の細道」の旅に出たのは、この5年後の1689年のことです。発祥碑は俳諧師が持つ「控え帳」をデザインしたもので、「こがらしの身は竹斎に似たる哉」を筆頭に「冬の日」巻頭の表六句が刻まれています。

（愛知県・発祥の地コレクションHPより一部引用）



テレビ塔北東・桜通り南にあった蕉風発祥の碑。多くの樹木と草花に囲まれた緑の歴史空間がなくなり寂しい限りです。新しい開発でどのようなになるか気がかりです。